

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

疑問に注目～栽培活動を通して～／学校法人勝田学園大成幼稚園

栽培活動では、子どもたちはどのような疑問をもち、栽培物と関わっていますか？

この事例では、子どもたちの素朴な疑問を保育者が大事にしています。「科学する心」が育まれる場面を見逃さないようにしようとする保育への姿勢が伝わってきます。



夏野菜の栽培で出てきたいろいろな疑問／5歳児

✦ きっかけ

子どもたちがどのような野菜があるのか調べていく過程で、野菜には育てる時期（夏野菜、冬野菜）があることを知り、時期にあった夏野菜からいくつか選び育てることとなった。

みんなで話し合い、エダマメ、トウモロコシ、ニンジン、オクラの4種類の野菜を育てることに決まった。さらに、どのような種の形で芽が出るのか見てみたいという子どもの言葉から、種から育てることになった。

✦ 疑問1 砂場の土とは違う？

種まきをする土に触れて、いつも遊んでいる砂場の砂と野菜の土との違いに気付いた子どもたち。「お砂場の土とちょっと違うね」「お砂場の土は遊ぶ用だもん」子どもたちがやりとりをする。Aちゃんは「おじいちゃんが野菜用の土は栄養がないと駄目って言ってたよ!」と言う。そこで保育者が「野菜用の土って何て言うか知ってる?」と問いかけると、「知らない」「本で調べてみようよ」と話す。子どもたちはAちゃんの発言により、野菜用の土には栄養を混ぜることを知る。

そして、本で調べることによって、腐葉土を知り、翌日子どもたちが野菜用の土と腐葉土を混ぜてプランターに入れる。

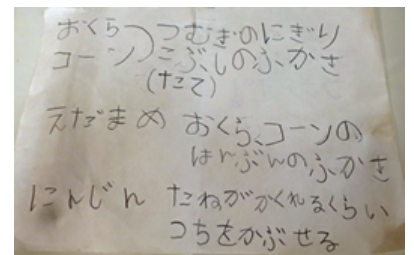


✦ 疑問2 どうして、植え方が違うんだろう？

実際の種を初めて見る子どもが多く、嗅いでみたり触ってみたりする。種の形や色に驚いている様子である。「どうもろこの種は黄色じゃなくてピンクだね」「エダマメの種は、鬼は外の豆まきの豆みたい」「ニンジンの種は青のりみたいだね」などとやりとりをする。

種を見た後、翌日に種を植え付けると決め、クラスでどのように種を植えるのか話し合う。「土を掘って、穴を開けて種を入れればいいんだよ」という意見が出る。そこに、『おじいちゃん、野菜を育てているから聞いてみるよ』とBちゃんが言い、調べてくれることになる。翌日、Bちゃんが祖父に電話をして野菜の育て方を聞き、紙に書いてくる。B

ちゃんがみんなの前で発表したことと、調べた紙を元に、クラスでどのように野菜の種を植えるのか再度話し合いをする。「年中のときに植えたチューリップは、いっぱい掘って（深く）植えたけど、野菜は違うんだね」「どうして、トウモロコシとエダマメとニンジン、植え方が違うんだろう?」「種の大きさが違うからだよ」と話題になる。Bちゃんの調べてくれたメモにより、野菜の植え付けにおいてそれぞれ種を入れる深さが違うことを知る。そして、種の植え付けを無事に行う。



✦ 疑問3 葉っぱの形って違うんだね？

子どもたちは種を植えてからすぐに芽が出ないことを不思議に思い、疑問を抱いている。そして4種類の種を植えていたが、どこに何を植えたか分からなくなってしまい戸惑いが出てくる。

そこで、友達と話し合い、「とうもろこしのともちゃん」など、野菜の名前を決めて札を立てる。名前を付けることでより野菜に対する興味・関心が出てくる。

種を植えてから約2週間後、プランターを見に行くとエダマメ、トウモロコシ、ニンジン、それぞれの芽が出ている。楽しみにしていた芽がついに出土したことを喜ぶ子どもたち。「わあ、芽が出てる！すごいね！」「ほんとうだ！」「あれ？でもなんか形が違うねー！」「そうだね。なんかにんじんはふさふさしておもしろいよ」と、発見したことを喜んで話し合う。



✦ 疑問4 次々に生まれる疑問

その後、栽培活動を続けることで、様々な疑問が生まれた。

- **元気がなくなった…どうしてだろう？**
祖母から聞いたCちゃんの話から、水のやり過ぎで元気がなくなったのではないかと話し合う。
- **どうして枯れてしまったのだろう？**
「本には栄養をあげるって書いてあるよ」「枯れたオクラは日陰にあった」「隣同士の野菜はぶつかるから切ってみたら…」「でも、せっかく伸びたのに切ったらもったいないよ」「でも、切らないと野菜が太陽に当たらないよ」など話し合う。



✦ 考察

4種類の野菜を同時に栽培したことにより、それぞれの葉の形の違いに気が付くことができた。これは種から栽培したからこそ注目し、気が付くことができたのであると思う。また、この時に作った名札があることで、それは何の芽であるかを自分たちで確認しながら見ている姿があった。

今までの経験から〈水をあげる＝元気になる〉と子どもたちの考えだったが、〈水をあげる＝枯れる〉という実情に不思議と疑問を感じていた。

そして、図鑑や本を読んで知識のある子どもや野菜作りの経験がある子どもの、「お水のあげ過ぎはダメって、おばあちゃん言ってたよ」の発言に解決策を見出す。

少し改善されたかと思っていたが、再び成長しないという問題にぶつかる。

間引きを知らない子どもたちが理解できるよう同じ時期に植えて枯れてしまったオクラの事例を出し、子どもたちと共に解決策を見付け出した。自分たちの失敗した経験が、次へと繋がる一歩となった。間引きをしたことで、実際大きく育っていく姿を目にして、間引きをする意味や大切さを実感することができた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」